INVITATION

Ehime University Hospital ［愛媛大学医学部附属病院広報誌］

VOL 10
2007

患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

患者様と共に、スタッフが一丸となって、より質の高い医療を目指す

医療安全管理部 ゼネラルリスクマネージャー（GRM） 本間和子 看護師長

病棟スタッフステーションでの医療安全管理指導

PROFILE

ほんまかずこ◎1972年姫路赤十字高等看護学院卒業。卒業後は姫路赤十字病院勤務。住友病院（大阪）を経て、1978年より当院勤務。趣味は旅行、自然鑑賞。旅行先は、近くて自然豊かな九州の温泉が好き。

医療の現場では、患者様の安全・安心をより質の高いものにするため、医師や看護師を始め、多くの職員が連携を図りながら、日々努力しています。医療は、100%の安全・安心が求められますが、人が人に医療する以上、完璧な結果をだすのは難しいことです。それを100%に近づけるため、医療安全管理部があります。私たちは患者様とそのご家族が、一番いい治療を選択できるようにサポートします。また、安全性を高めるために患者様とご家族に医療チームの一員として、治療に参加していただく取り組みを始めています。

例えば、患者様自身に、ご自分のフルネームを名乗っていただくことのお願いをはじめ、入院時には転倒防止の「転ばぬ先の杖」として、スリッパではなく足に合った軽い履物（くつ）を選ぶ、ズボンの裾の長さに気をつけるなど、患者様にもご注意いただけることをピックアップ。投薬は医師や看護師が確認するのはもちろん、ベッドサイドでは患者様も一緒に薬の確認をお願いしています。もちろん、なぜこのようなお願いをするかについて充分説明させていただき、患者様参加型医療とも言えるパートナーシップで、より安全な医療を推進しています。

一方、スタッフには、医療の現場でヒヤッとすること、ハッとすることなど、患者様にとって有害になるだろうことを、大小関係なく、正直にレポートで報告してもらっています。

医療安全に関してまとめられたマニュアルの数々

当部の重要な役割は、現場でどういったことが起こっているかを、把握して分析し、事例を共有し、対策を立てその実施を支援することです。例えば、全体的なマニュアルとして、当院独自の「医療事故防止・安全管理マニュアル」があり、その作成や周知、必要に応じた見直しも行っています。関係部署の先生方やスタッフの意見を聞き、情報交換しながら、決して一方的ではないマニュアルやシステムを作成することを心がけています。そして各現場で医療安全を推進するリスクマネージャーと連携を深めながら、末端までマニュアルを周知徹底。月1回GRMレターを発行するなど、情報提供や広報活動も行います。医療安全の教育も大切ですから、教育計画の企画運営なども当部の業務として、講義や演習の集合教育も行っています。それらを全スタッフが理解して同じ思いで、協力的に推進していることは、当院が誇れる事の一つです。

医療安全は、ほんの小さな事の積み重ねだと私は思っています。それを確実に全員が徹底して実施する事が重要ですね。

患者様の院内感染はもちろん、スタッフの感染予防にも尽力

感染制御部 **中野夏代** 副看護師長

PROFILE

なかのなつよ◎1991年自衛隊中央病院高等看護学院卒業。1996年より当院勤務。看護学校時代には、自衛隊の訓練も体験。趣味はスキューバダイビング。最近は海へ行く時間が無く、愛媛の海にはまだ潜れていないそう。

私は感染管理の認定看護師になり、感染制御部の専任として、病院内を組織横断的に活動しています。感染制御部の主要な目的は、全ての患者様を院内感染から守るということと、病院で働く全ての職員を感染から守ることです。そのための業務は、病院内からの感染に対する相談を受けつけ、抗菌薬の指導、予防対策の技術指導、教育などを行います。感染制御に関して、ガイドラインや指針などはたくさんありますが、実際にそれらを当院で継続して行うにはどうしたらいいのか、具体的な対策を立てるのは大変ですね。既存のガイドラインを現場にそのまま伝えても、遵守や実施は難しい。できるだけスムーズに、現場で受け入れてもらうためにはどうすればいいのかを、常に考えなければなりません。

感染制御は患者様だけを対象と考える病院も多いと思うのですが、医療従事者自体が健康を保つことで、患者様への感染リスクを減らすことができます。当院でも以前はインフルエンザや麻しんなどのワクチン接種を、職員本人の意志に任せていたのですが、接種を呼びかけたことで、ここ3年ほどは皆さんに協力いただき、インフルエンザなどの発生はほとんどありません。組織として病院がとても協力的で、検査・ワクチン接種などの費用を全て負担してくれるので、職員も受けやすいようです。

院内感染を防ぐためには、患者様の協力が不可欠。当院では受付などに、速乾性の手指消毒剤やマスクを設置していますので、咳のある方、病状が気になる方などは気軽に使っていただけると嬉しいですね。

子宮がんなど、婦人科の手術、治療は低侵襲の時代

産科婦人科 **草薙康城** 医師

PROFILE

くさなぎやすき◎愛媛大学医学部附属病院・産科婦人科助教。1987年愛媛大学医学部卒業。卒業後、当院勤務。市立八幡浜総合病院、愛媛県立中央病院を経て、再び当院へ。周産期医療、婦人科腫瘍を専門に活躍。趣味は子どもとテニスをすること。

私は、周産期学と婦人科腫瘍学が専門です。以前は子宮がん、子宮頸がんというと子宮全体をとってしまう手術が一般的でした。現在は子宮を残す手術や体により負担の少ない低侵襲の手術が多くなっています。がんだけでなく、婦人科の手術は腹部を切る手術がほとんどでしたが、今は内視鏡などのカメラを使った手術が増えました。当院でも積極的に、患者様への負担が少ない治療を目指し、現在、婦人科の手術の約半数は、腹腔鏡による手術です。また、近年は若年層の子宮がんが増加し、以前は40代からだったがん検診が、昨年より20歳から勧めているほど。若年の方はこれから出産を望む場合が多く、私たちは患者様とよく相談して、子宮温存や体に負担の少ない治療ができるよう最大限の努力をしています。実際に、20代で子宮がんの治療後、出産された方が何人もいらっしゃいます。婦人科に限らず、がんの治療は早期発見、早期治療が何より大切。特にこれから出産をされる場合においては、より一層重要です。そのためにも若い方でも定期的に検診をしてください。当院には女性医師も多くいますので、安心して受診できると思います。紹介の場合も早期の検査や治療が望まれますので、気軽にご相談ください。

産婦人科医の不足は愛媛県も例外ではありません。ただ、県では医師の集約化を図ることで、どの市町村からも車で30分圏内に主要病院があり産婦人科を置いています。松山市周辺では当院と、愛媛県立中央病院、松山赤十字病院が協力して、急患を受け入れています。ですから、全国で問題になっている急患のたらい回しなど、愛媛県ではまず起こらないと思ってください。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設のご紹介

お気軽にご相談ください

看護部がインターンシップ（就業体験）を実施

猛暑の中、県内をはじめ遠くは千葉県から総勢93人が参加しました。看護部長の挨拶の後、看護部の概要・活動内容の説明、病院内見学、各部署の紹介を行い、各部署に分かれて体験実習を行いました。体験実習では、今年度採用されたスタッフも加わってベッドサイドでの実習を行うなど、先輩の働く姿を間近で見ながら看護を行うことで、将来看護師として働くイメージを明確なものにできたようです。

平成19年8月6日（月）から8月10日（金）まで、看護部が来年度の就職希望者を対象としたインターンシップを実施しました。これは本院の機能や、看護師の役割を知り、看護体験をすることによって、就職への不安や疑問を軽減できるように支援する目的で、昨年度から実施しているものです。

参加者からは「忙しい中でも明るい雰囲気で良好な人間関係を見ることができ、ぜひここで働きたいと思った。」などといった意見を聞くことができ、充実したインターンシップとなりました。

看護部管理室
TEL：089-960-5753　FAX：089-960-5649

オープンハウス（病院見学会）

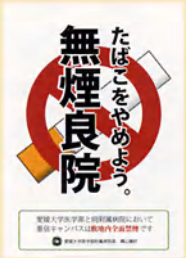
平成19年8月3日（金）、高校生を対象とした「オープンハウス」を実施しました。手術部や放射線部読映室など普段はほとんど内部を見られない部署や、病棟のスタッフステーションなどを公開し、各部署の職員が説明しました。高校生からは「職員の皆さんが親切で、患者さんも安心できると感じました。」「施設も充実していて素晴らしかった。」などという感想が寄せられました。本院では今後もオープンハウスを逐次開催し、更に地域に開かれた病院を目指していきます。

総務課総務チーム
TEL：089-960-5125
FAX：089-960-5131

禁煙推進ポスターと標語の優秀賞を表彰

本院では平成18年6月より敷地内全面禁煙を実施しています。禁煙への意識をさらに高めるため、この度職員を対象に禁煙推進ポスターと標語を募集し、優秀な作品を表彰しました。ポスターには広報室中村勝氏の作品が、また標語には医療サービス室福本和世氏の「禁煙に 踏み切る勇気に 金メダル」が選ばれました。

これらの作品は、本院における禁煙推進の取組みの顔として、今後様々な場面で活用される予定です。



医療サービス室（患者サービス担当）
TEL：089-960-5099
FAX：089-960-5134

マドンナ・ドクター養成プロジェクト

当院では、出産や育児等によりやむなく離職せざるを得なかった女性医師の復職を支援するため、「マドンナ・ドクター養成プロジェクト」を実施しています。貴重な人材である女性医師達が医療現場から完全にリタイアしてしまうことを防ぐため、本プロジェクトでは総合臨床研修センターを中心として、病院全体で復職を目指す女性医師に対して、知識・技術を戻し生活リズムをつくるためのプログラムを作成し、支援を行います。

復職を目指す女性医師のみなさんは、ぜひご相談ください。

◎問い合わせ先：
総合臨床研修センター
TEL：089-960-5098
FAX：089-960-5131
E-mail：
kenshu@m.ehime-u.ac.jp

編集後記

大学病院の周辺も稲の収穫が終わり、秋晴れのお天気に近所のコスモス園も多くの人出で賑わいました。今回も多くの輝くスタッフ達に登場していただきました。看護部でのインターンシップやオープンハウスもとりあげました。さらに禁煙推進活動の一環としてのパネル展示、禁煙ポスター、禁煙標語募集も行いました（パネルを快くお貸しいただいた禁煙推進の会愛媛に感謝します）。いつも元気いっぱいの愛媛大学病院をご覧下さい。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長　檜垣實男

◎表紙の人
新救急部長　相引眞幸 教授
―緊急処置室にて―

愛媛大学医学部附属病院
〒791-0295 愛媛県東温市志津川　Tel.089-964-5111（代）
ホームページ http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/